

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 5 日現在

機関番号：11301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23653086

研究課題名(和文) 西欧における都市公共施設の機能と役割に関する歴史学的研究

研究課題名(英文) urban history

研究代表者

川名 洋(Kawana, Yoh)

東北大学・経済学研究科(研究院)・教授

研究者番号：70312527

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円、(間接経費) 720,000円

研究成果の概要(和文)：西欧経済史から学ぶべき最大関心事の一つは、近代工業がもたらす急激な経済成長期以前に、緩慢だが着実な経済発展が起った要因であろう。しかも、それは成熟した市民社会を導く都市の歴史と重なると考えられる。こうした西欧独特の経済史について都市の成り立ちから探究し得られる知識は、現代社会の有様を知り、行く末を見通す上で大きな拠り所となる。本研究では都市の流通・生産を支える公共施設、それを管理する政府の動向に着目しながら、公権力(公式)と市民の経済生活(非公式)双方の論理が融合する理想的な市民社会のルーツを探る実証研究法の確立を目指している。

研究成果の概要(英文)：It is a commonplace to say that urban commerce and industry became the driving force of the precocious economic growth of Western Europe in the medieval and early modern periods, but our understanding can be further enriched by analysing them in the much wider social context of civic society. This research project explores the origins of civic society with particular reference to the formal and informal forces which affected the formation of public and commercial institutions in major urban centres in Europe. The aim of the project is to further our historical understanding of the urban process which emerged well before the age of rapid industrialization.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：公式・非公式 自治都市 商業化 市場 コーポレーション カンパニー 都市景観 市民

## 1. 研究開始当初の背景

西欧では経済発展の礎となる各地の都市が、自立的政治共同体としてまず出現する。それは、外部から人、モノ、情報を取り込むという経済機能と、中央政府や在地地主とを結ぶ太いパイプを維持しつつも独立思考の自治体の政治機能、という2つの機能を兼ね備えていた。また、西欧都市群のこうした役割を具体的に示す歴史のプロセスとして目に見える形でそれを具現したのは、都市の公共施設であった。公共施設の発達に関する実証研究の必要性が認識される所以である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、西欧都市の経済機能と公共施設の充足との関係性について調査する有効な分析フレームワークを構築することにある。そのために、工業化の時代に先駆けて都市化の影響により変貌する西欧近代の歴史的特色に注目し、社会インフラの変化を目印にその要因となりうる商業化、産業集積、制度蓄積の経緯を分析して都市化の意義を鮮明にすること、また、かかる分析結果から、成熟した産業社会に不可欠な都市の成長過程で醸成される豊かな歴史的意味を探究する独創的な研究方法を確立することを目指す。

## 3. 研究の方法

都市の公共施設にかかわる法規や維持管理費の特色に関する記録の分析に向け、主にイギリス中世・近世において発展する自治都市を事例に史料および文献の収集と調査を行う。

## 4. 研究成果

平成23年度には、イングランドの地域流通拠点を対象に、商業の発達と都市公共施設との関係を取り上げ、商取引を円滑にするため

設けられた主要な制度と建築物に着目して調査を進めた。その結果、都市を利便性・効率性に依拠した単なる経済組織としてではなく、歴史資料により裏付けられる政治・社会空間として総括的に把握する分析方法の有効性が高まった。例えば、都市自治の象徴的な建築物である市庁舎は、中世以来、増改築の様子が公文書に記録され、とりわけ、16世紀には都市支配層の統治意欲の高揚と整備の著しい進展とは相関している。一方、重要度を増す市場(いちば)機能への彼らの関心は、市庁舎を意図的に市場付近に建設する経緯によく表れている。また、主要な港町の商業に欠かせない波止場の開発や堤防の修復には早くから都市自治体が積極的にかかわり、他方、政治的共同体の象徴でもあった市壁に備わる市門は、都市民と農民とが交わる商取引の場として利用され、都市自治体も注目していたことがわかる。

このように中世・近世都市では商業のエネルギーを市民的共同体の活力へと転換させる西欧独特の歴史プロセスが、公共的および私的な「空間」に出現する建物とその周辺に色濃く現れる。本調査により、その様子を再現するために必要な基礎資料が整い、実証分析に向け研究を継続している。

平成24年度には、イギリス各地の流通拠点を対象に、工業の発達と都市制度との関係を取り上げ、産業集積を円滑にするため設けられた主要な産業組織の機能に着目して調査を進めた。その結果、都市が、その基本的経済機能を果たす流通拠点としてだけでなく、非農業人口を着実に吸収する産業空間としても有効な分析対象となるという論理を組み立てることができた。例えば、高度な手工業技術が集中する都市では、中世・近世を通じて同業者組合を基礎に私的な経済行為を公的な経済活動へと昇華させる制度の成熟が目立つが、その中心となる産業組織には、単に商関係を損なう情報の非対称性など取引費用の削

減をもたらす働きだけでなく、新製品や生産工程の合理化を含むイノベーションを促進する機能も備わるようになり、定住男性中心の公式な経済と、女性や移民により形成される非公式な経済の両面を持つ都市に適合した構造を有していたことがわかってきた。

このように本調査により、中世・近世都市では工業のエネルギーを市民的政治共同体の活力へと転換させる西欧独特の歴史プロセスが、公の空間、私的な空間それぞれにおいて展開される経済活動にも現れる様子を再構築するために必要な基礎資料が整いつつあり、現在、実証分析に向けた予備的研究を継続している。

平成25年度には、前年度得られた知見をもとに実証分析の予備的研究を継続し、そこで得られた着目すべき結果は、以下の2点に要約することができる。第一に、都市制度の発達を促す要因を考察する際に、公権力側の論理（公式性）だけでなく、そこには実際に制度を運用し利用する都市民の論理（非公式性）が混在するという、都市史の研究でこれまで見過ごされてきた視点である。例えば、中世から近世にかけて発達する都市の市場（いちば）は、こうした都市史の文脈においてその発達のメカニズムを考察できるわかりやすい事例であった。また、同様に、「カンパニー」、あるいは、「コーポレーション」という西欧都市独特の組織形態を基礎に発達する経済組織も、「公式性」と「非公式性」をキーワードにその発達の過程を説明することができるテーマであることもわかった。例えば、当初一部の商人層が集うフラタニティーの性格が強かったマーチャント・アドベンチャラーズ・カンパニーは、16世紀までに王権の支援を取り付けながら、国際商業の先導役として公式な組織へ上昇転化した。1600年以降、マーチャント・アドベンチャラーズ・カンパニーに代わって東インド会社が台頭したが、ここでも「公式性」と「非公

式性」に着目してその成長を説明できる。すなわち、ロンドンに本部を置き、公式性を標榜する東インド会社ではあったが在外商館では私的なビジネスが行われていた様子は、都市で展開されていた公式・非公式の活動が国際ビジネスの舞台で繰り返されていたとみることもできるであろう。とくに、その東インド会社が、不特定多数の横の経済的つながりを「カンパニー」を組織して束ねる一方で、公権力とつながることで権威付けされた「コーポレーション」という都市自治体独特の統治組織モデルにより繁栄した様子があったことは極めて重要な発見といえる。

第二に、公共建築物が集中する商業中心地には、都市独特の経済空間が生まれるが、ここでは、単純な経済効率と利便性の論理よりもはるかに複雑な政治、社会、文化的論理に基づく経済活動が展開されていたことも明らかになりつつある。例えば、市内の教会建築の規模は都市経済の大きさと比例していた事実や、市場付近に建設されるようになる修道院や救貧院の様子から、食料だけでなく精神的救いをも必要とした都市民の暮らしぶりを考察することができる。こうした発見は、主に商業化や制度変化の視点から分析されることが多い市場空間の歴史的意味を、建物や施設という公共設備の考察を含む複眼的アプローチをもとに広い視野で分析することが肝要であることを示している。

なお、これらの論点の一部については、論文「中世・近世イングランドの商業化 都市史の視点」（中野忠他『一八世紀イギリス都市空間を探る 「都市ルネサンス論」再考』刀水書房,2012年5月所収として発表した。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計1件)

川名 洋「中世・初期近代イングランド  
の商業化 都市史学の視点 」, 中野  
忠他『一八世紀イギリス都市空間を探る  
「都市ルネサンス論」再考 』刀  
水書房, 2012年5月(271頁)所収, 188-208  
頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

[http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawana/  
index.html](http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawana/index.html)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

川名 洋 (Kawana, Yoh)  
東北大学・経済学研究科・教授  
研究者番号: 70312527

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号:

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号: